

山岸 若菜 新連載

今回から千葉晃央さんのお誘いを受け、連載させていただくことになりました、山岸と申します。

仕事は看護師をしています。看護師免許を取ってからもう20年になり、これまで色々な科で働いてきました。

看護学生の時は人の命を救う救急救命がかっこいいな～！と思っていました。

「戻ってこ～い！」と言いながら心臓マッサージとか「はい！離れて！」ドカン！とか、憧れていました。

実際にそういう急性期の病棟にいたこともあります、現在私が働いているのは精神科の訪問看護です。

医療行為はほとんどなく、利用者さんのお家に行って利用者さんやご家族のお話を聞いています。

毎日車で移動して訪問するので、大事なことは日焼け対策とトイレタイムの確保です。

派手さはありませんが日常の中にある利用者さんとのやり取りに魅力を感じ、10年以上続けています。

執筆は自分らしさを大切に、面白く続けていきたいです。よろしくお願いします。

ある訪問看護師のアタマの中

P273～

宮井 研治 新連載

はじめまして、初参戦します。対人援助学マガジン史上、最後の大型新人と言わ

れています、宮井研治と申します(自分調べ)。とりあえず、よろしくお願いします。

今回は、なぜこの雑誌に書かせていただこうと思ったのかの動機について、お話ししたいと思います。

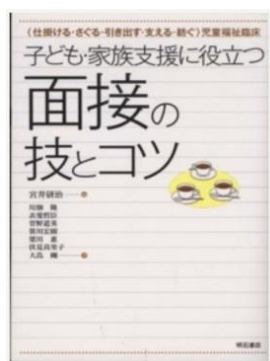
私、三十数年ほど、大阪市で公務員をしていました。大阪市の枠の中では、臨床心理職員という肩書きの専門職採用でした。公務員なので、当然異動があり、いくつかの職場で働いてきました。その中で、いわゆる「児童相談所」という機関にいた時間がもっとも長くなりました。現在は、縁あって(まあ、世の中のことは、だいたいご縁で繋がってるわけですが)京都市の山科にある京都橘大学で、先生をしています。

かたい言い方をすると、児童福祉臨床業界で長らく働いてきたわけで、その当時から、この業界で働いていて、団士郎の名前を知らない人はモグリでした。したがって、この特筆すべき Web 誌の存在も知っており、有難いことに、「書いてみない？」なんて声をかけてもらえることもありました。その度に躊躇した理由は、締切です。締切が嫌です。夏休みが終わり、明日から新学期なのに、読書感想文ができてませんわ、あの感じがダメです。思えば、人生は締切の連続です。好き好んで、自ら締切を一つ増やすようなことをする必要があの？ないでしょ！

つまり、忌み嫌う締切を設定してでも、書きたいという個人的な動機が高まったということです。続きは本文にてお読み下さい！

人生は対応のヴァリエーション

P279～



内田 一樹

最近月日が過ぎることが早くなりました。それから1年の中で自分が元気なときとそうでない時のリズムがなんとなく

く分かるようになってきました。暑い季節に向かって元気になり、寒い季節に気持ちが沈んでいきます。それでも不思議なことに好きな季節は冬です。暑がりなので寒い方が好きなのです。気持ちのリズムと逆になって不思議だなーと感じています。

社会科の授業を 対人援助学の視点から P256～

來須(らいす) 真紀

二回目です。一回目と二回目の間で、自身にとってもない変化が occurred。「転勤」です。しかも「管外」要するに教職ではない仕事です。

実は4月から児童相談所 一時保護所で仕事をしています。自身、学校という組織を冷静に外から眺めていたと思ってたのと、児童福祉と教育という2つをつなげるにはどうしたらよいかと思っていたので、希望して転勤させていただきました。(本当に風変わりだと言われましたが)授業はもちろんないですが、学習指導と生活指導なので、仕事内容的にはあまり変化は感じられないのですが、児相のほうが「より子どもたちのために仕事してる」感が強いのと、夜勤、準夜勤、早出、遅出、日勤とまあ、仕事時間に変化があり、ただいま体重増量中です。(夜勤すると2倍お腹がすきます)

見ているのは同じ子どもなのに、学校と児相では微妙に見方考え方が違うというところが、新鮮です。これから自分自身どのように変化していけるのか。「やっぱり学校ってええわあ。」と思うのか「やっぱり学校って変だわあ」と思うのか楽しみです。

教室の窓から

P253～

山本 竜司

5月には新型コロナウイルス感染症の位置付けが法律上5類に移行し、ようやくコロナ前の日常に戻つつあるようです。もちろん、ウイルス自体が何かに変化したわけではなく、あくまで人間が決めた分類に過ぎませんが、100年後には、かつてスペイン風邪が流行した時のように、「令和時代のコロナ流行」というように歴史の一頁として語られるのでしょうか。

社会教育の周縁

P246～

中谷 陽輔

連載 3 回目です。春という気持ちの良い季節を噛みしめたい思いと新年度で切り替えるべきところとのアンバランスさがある中で、あれよあれよと 4 月、5 月が過ぎています。

新たに、というところで最近の出来事。古い調理キットを入れ替えていた際、新たに購入したスライサー。切れ味の良さに流石！とズッキーニの薄切りをしていたら、うっかり右手中指の先をさっくり切っていました…(こういった話題が苦手な方、唐突にスママセン)。

…幼少期ぶりに休日の病院に行きました。平日日中はガヤガヤとしているであろう静かな外来で待ちつつ、「新たなものへの好奇心も大切に、年齢に応じた慎重さと節度も大切に！」と自分の行動を振り返っていました。

そして最低限のスタッフしかいない病院で手当てを受けながら、当たり前に見える日常生活を支えているいろんな人の仕事は、普段は目にしないものであったとしてもずっとそこにあり、それは決して当たり前ではなく「有難い」ことだな～としみじみしていました。

ついでに、今現在ややタイピングが思うようにいかないのもまた、日常の有難さを感じる機会だと思えばさほど大したことではない…とやせ我慢をしています。

引き続きよろしく願いいたします。

コソダテノシンリ

P248～

櫻井 育子

最近、フランス語を習い始めた。理由は自分の車がルノー社のカンゲーだから、とか、フランス映画で聴いたフランス語の響きが美しくずっと憧れていたから、とか探せばいろいろある。が、とにかく「なんとなくやってみよう」という単なるノリである。平日の屋間に制約のないひとたちが(平均年齢は相当に高い)少人数で集まり、知的な会話と、ときにくだらない親父ギャグを聞きながらフランス語、である。そして 44 歳はだいぶ若いと言われ調子に乗る。語学に全く自信がなく、コンプレックスの塊

だったが、なんの評価もない学びの時間は最高だとしみじみしている。

わたしはここにいる

P244～

鳴海 明敏

県庁職員を定年退職した翌月に新規開設された、情緒障害児短期治療施設(現在は、児童心理治療施設)の園長を引き受けてから、14年目に入っています。

学園の各部屋には、それぞれ愛称がつけられています。職員室は「ほしぞら」、事務室は「あさひ」、医務室は「はるかぜ」、相談室は「こなゆき」という具合です。二階の子どもたちの居室には、オリオン、シリウス、タイタンなどの名前がついています。

この施設の開設を決意し建物を建て、私を園長に呼んでくれた当時の理事長の、夢や希望が込められているような気がしています。

園長室には「こかげ」という名前がつけられています。ということで、サブタイトルは「こかげのにちじょう」とします。紹介する子どもたちについては、それなりのカモフラージュを施しています。

青森カウンセリング研究会という集まりがあり、友田不二男先生の日本カウンセリングセンターと連携しながら、月例会や3泊4日の浅虫ワークショップの開催や日本カウンセリングセンター主催の夏季ワークショップの共催などの活動を続けてきました。

浅虫ワークは、2020年令和2年3月に第49回の開催を企画しましたが、コロナ禍ということで、急遽中止せざるを得ませんでした。それ以来、対面で集まることを極力避けて、ズームを利用しての文献の読み合わせの活動を細々と続けていました。

ようやく、6月23日から25日まで2泊3日に短縮して再開することにしました。どんな展開になるか、今から楽しみです。

児童心理治療施設の園長室から

～こかげのにちじょう～

P242～

高木 久美子

なんとか無事に投稿が1シーズンをめぐり、おかげさまで 2 年目に入ることができました。

ボランティア先で「投稿を楽しみにしています。」と声をかけてくれる人。「マガジンの URL を仲間とシェアしましたよ」と連絡をくれる人。いろいろな形でヨミトリとヨミトリ君で一緒にしてくれる人がいて、大いに励みになります。

昨年秋の視覚障害の友人のコンサートの成功に味を占め、今年は「遷延性意識障害の友が語る会～音楽演奏付き」をプロデュース中です。

ヨミトリとヨミトリ君で一緒にしましょ！

P235～

きむら あきこ

昨年の10月に放送大学に入学しました。生涯学習のつもりです。11 月には中間テストのような存在の課題があり、今年の1月には、単位認定試験がありました。前期目標としていた 15 単位、無事合格することができました。

放送大学は、インターネットでも視聴することができ、様々な学習科目を学ぶことができます。社会人経験があるからこそ、理解がスムーズになる科目も多々あります。知識が広がることをとても楽しく感じています。今年ももう一つ、挑戦したいことがあります。挑戦できたら、また近況報告したいです。

かぞくのはなし

P232～

原田 希

農協通じて関東の女性から問い合わせがあり、誰かな？と思ったら 15 年前に生協の生産地訪問ツアーでウチへ見学来た当時 10 歳の女の子でした！25 歳になって新婚旅行で北海道へ行くので再訪したく探してくれたとのこと。えーそんな特別な旅行でウチに！ってなんか泣ける。電話口でうっとしてたら、その子ももらい泣き(一回しか会ってないで、私ら…笑)



酪農情勢悪い中で、自分がやれることを考えてみるも、結局は酪農や牛乳ファン

を作らない！と思ったところだったから、なおさらね、感動でした。ちなみにウチを探すためにネット検索をしてくれて、このマガジンにも辿り着いてくれていました。細々の投稿なりにも執筆することの意味、肉づいてきたように思います。今回は泌乳のメカニズムについて書いています。知られざる酪農の世界へどうぞ。

原田牧場Note
P187~

野中 浩一

コロナが五類に移行し、地域の行事が復活の兆しを見せています。

私が住む島根県の中山間地域では今も自治会が地域の紐帯として機能しており、コロナ前は、地域の運動会、旅行、飲み会、お祭りなど、集まる機会が年に何度かありました。しかし3年半のブランクにより、(私も含め)戸主のおじさんたち以外はほとんど顔を合わせる機会がなくなっていました。

地域の子どもたちの成長が早すぎて、もはやどの誰だか分かりません。

「島根の中山間地から Work as Life」
P227~

畑中 美穂

庭を、つばめが低く飛ぶ季節になった。我が家には巣はないが、近所の農家では毎年、稲家に迎える家もあるようである。今、田んぼには、まだやわらかな苗がさわさわと揺れる頃。少し前の時期にはなるが、田植え前の、水が張られたばかりの田が一年で一番好きである。風がなければ鏡のよう。ほんの2日間ほどのことであるが、我が家まで湖のなかに建っているように感じられるのだ。

さて去年の今頃は、母が我が家に滞在していた。毎日庭を、飽くことなく眺めていた。ふと見れば、母は椅子に座ったままつらうつらと居眠りをしていることもあった。「今年も、つばめが」。

母はどうしているかな？ 報せの手紙でも出してみようと思う。

一語一絵
P215~

渡辺 修宏

パンデミックはもう終わったと、お考えの

方も少なくないようです。かといって、COVID-19 が消滅したわけではありません。

感染予防を重要視したいけど、やりすぎると毎日の営みが大変になる。これってある種のコンフリクトですね。

なんどもほどほどが大事、とか、絶妙なバランスとりが最良、とか、多様な指針が飛び交っております。

最適解は、A であって B でない、かつ、B であって A でない。恩師の言葉、「そうであって、そうでない」を思い出します。

対人援助実践をレポートする
この一冊
P220~

米津 達也

勝手に職場の事務所に「図書コーナー」を作った。自宅の狭い本棚は既に満杯。仕方なしに以前は小まめに手放していたが、やはり愛着ある本は置いておきたい。誰かに自慢するわけでも、無理に読んでもらうためでもない。言葉を共有し、差異を意識する。これもひとつの方法としてやってみました。

川下の風景
P204~

高井 裕二

転職に伴いまして、車通勤から電車通勤へと変わりました。満員電車は非常にストレスではありますが、色んな気分転換の方法を見つけて頑張っていきます。手始めにスマートウォッチを購入し、健康管理アプリを使いながら「歩く」ことに力を入れています。健康を管理するというより、アプリに管理されているという感じですが、新生活を頑張っていきます。

福祉教育への挑戦
P218~

本間 毅 退院支援研究会

本号から「幾度となく会い、語り合うことの意味」を再開する。

前回の執筆者短信でお伝えしたが、本年3月9日~3月18日の間に遠見書房が「第11回ナラティブ・コロキウム」を開催した。私が担当したワークショップに頂いたお題は、「チーム医療とナラティブ」である。全くの偶然であるが、この依頼を受

ける直前、私はマガジン第52号に「チーム医療におけるナラティブの意味」を掲載する準備を始めていた。

時はさかのぼり2018年春、我が退院支援研究会は、立命館大学総合心理学部の齋藤清二教授から「医療における多職種協働と物語能力」という特別講演を賜った。その翌年、私が齋藤教授に頂いた論文の題は、「医療におけるナラティブ・アプローチと物語能力」である。物語は偶然に意味を与える。

幾度となく会い、
語り合うことの意味
P206~



土元 哲平

『対人援助学マガジン』を卒業します。というのは、最近、書籍の編集や学術論文の執筆などを含めて、様々なプロジェクトに巻き込んでいただくことが多く、50号以来、休載が続いていました。そうした中で一度区切りをつけ、目の前のことに注力したいと考えたためです。連載中、対人援助学マガジンを読んだよ、と声をかけてくださった方もいらっしゃいました。「キャリアと文化」は自分にとって大切なテーマのひとつですので、今後も探究していきたいと思っております。ご愛読ありがとうございました！

玉村 文

元同僚や同僚に家族が増えています。新しい命の誕生の喜びを感じ、それぞれが親になっていく姿をみるのもなんだか嬉しいです。せつせとお古を詰めた段ボールを送ったりしているのですが、我が家にもたくさんのお古が届くので荷物が減っている気がしません。

そんな新たな家族を迎える時期に、最

近では父親の育休取得の話も聞くようになってきました。育休を取得して子育てに関わりたいたいという思いは、父親にだってあっても当たり前だと思います。ということで今回のテーマは男性の育休。

応援 母ちゃん！
P196～

川畑 隆

「さようなら」してすぐに「こんにちは」です。べつに「さようなら」から逃げているわけではありませんが、心新たに続投させてもらいます。

ゴールデンウィークに小2の孫を連れて、東かがわ市にある「しろとり動物園」に行ってきました。「自由すぎる動物園」としてテレビで取り上げられたそうです。象やキリン、ホワイトタイガーやライオンからウサギやモルモット、ひよこまで約 70 種類の動物がいて、あちらこちらで触れ合える仕掛けになっています。入場すると 1 杯 600 円のエサをバケツで売っていて、それをもってまわります。象くんは大きな口をおっぴろげて催促しています。ひよこの入った箱は離れた何か所に置いてあるので、手に取るのに行列になったりしません。虎がたくさんいましたが、もちろん放し飼いはなくなっておらず鉄格子の向こうです。でも、他の動物園のような「あちら側の観賞用」という感じではないのです。私を睨みつけます。私が移動すると追いかけて威嚇するときもありました。そんな感じで触れ合ってくるのです。これも格子の中ですが、ハイエナがうろついているのとその鳴き声は不気味でした。そんなに広い敷地ではないのですが、結局 5 時間ほどいました。飽きませんでした。公立ではなく民間がやっているのがうなずける気がしました。泊ったのは隣のさぬき市の「津田の松原」にある「クアパーク津田」。温泉パーデゾーンと温水プール施設があって重宝しました。車で 5 分のところに「日本ドルフィンセンター」もあって、イルカに餌やりをしました。自宅からも現地からも早く出発したおかげで、車の渋滞にはまったく巻き込まれませんでした。

孫サービスの面白い一泊旅行でした。

サイコロジー
P191～

松岡 園子

今、実家の片づけをしています。祖父や祖母が暮らしていた時の道具で片付いていないものがあり、なかなか苦戦しています。今の自分たちに必要なものだけを残すと考えると、ほとんど不要なものでした。人に譲るもの、捨てるものをまとめると、部屋2つ分ほどありそうです。

私は道具を増やさないようにしよう……。

**統合失調症を患う母とともに
生きる子ども**
P178～

一宮 茂子

【G7 広島サミット】

G7 広島サミットは 2023 年 5 月 19 日から 21 日の 3 日間、広島で開催されました。連日のマスメディア報道から G7 の主役は、現在ロシアによる軍事侵攻と大量破壊兵器の使用リスクの高まりをうけているウクライナのゼレンスキー大統領でした。彼のスピーチや質疑応答の内容は、世界中から注目をあびたと思います。緑ゆたかで平和な広島を訪れたゼレンスキー大統領は、第二次世界大戦で原爆投下された広島と現在戦時下にあるウクライナのバフムの街などを重ねたスピーチで世界の注目を集めたと思います。

被爆地広島でのサミットの意義は核廃絶の道筋を示すことだといわれえています。しかし公表された核軍縮についての文書は、核抑止論を正当化したものだったため、安全保障を核兵器に依存する G7 各国の本気度は見えてきません[核軍縮に関する G7 首脳広島ビジョン (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100506500.pdf>, 2023.5.19)]。原爆資料館を 40 分かけて視察し、被爆者と面会もした G7 や招待国の首脳たちは、核がもたらす悲惨さをどこまで理解できたのでしょうか。核は絶対悪として世界が認識すべきだと思います。

生体肝ドナーをめぐる物語
P180

杉江 太郎

児童家庭の領域で働く杉江です。最近、自転車での通勤を始めました。とは言っても電動自転車を使用して、20 分程度の移

動時間であるため、それほど大それたことではありません。自転車で通勤するようになって、日々の草木の成長に気付きやすくなったのと、花粉の脅威にさらされやすくなったそんな気がしています。ちょうど、同じタイミングで自転車にもヘルメット着用が努力義務という形で推奨されるようになりました。ちょうど 1 週間経ったころでしょうか、立った状態で自転車に乗っていて、自転車を止めようとしたときに、なんと駐輪場の屋根の柱で頭をぶつけることができました。ヘルメットを使用していたため、怪我はありませんでした。皆さま、自転車にはヘルメット着用が必要です。交通事故ではないときにも頭を守ってくれます。ありがとうヘルメット。

「余地」相談業務を楽しむ方法-
P173～

浅田 英輔



3年ぶりにバドミントンをやった。久しぶりだと汗をかく前に息が切れるが、動いていると汗だく。運動するのって、体を動かすのはもちろんいいのだが、「よしゃー！」とか「くそー！」とか大声出すのもすごいいい気がする。案外なくない？大声出すの。そして2日後に、もうすぐぐケツが痛い。筋肉痛が痛い。

臨床のきれはし
P85～

三浦 恵子

先般の「執筆者短信」では、役所からの帰路、徘徊し家がわからなくなった高齢者の方を、交番と連携しなんとか家族のもとに帰すことができた経験を通し、いわゆる「正常バイアス」に陥ることなく、少しの気付きや違和感といったものを大切にしていきたいと改めて感じたということを記載しました。

それから 2 月が過ぎたある日、今度は出勤途中で、路上に倒れている方を発見しました。

この日は事情があり始発電車に乗車するため家を出た時間も相当早く、その方を発

見したのも朝 4:30 頃でした。まだ薄暗い中で、私も直前まで気付かず、びっくりして足を止めました。これが繁華街やターミナル駅の駅前であれば、「酔いつぶれてしまった人がある」と思うところですが、場所は住宅地の路上、しかも新聞配達のパイク等との衝突なども起きかねないと感じました。

日赤救急救急員の講習で学んだとおりに「大丈夫ですか」と声をかけましたが、返事はありません。一見すると若い男性で大きな外傷ありませんが、大きな酪が気になり、体を揺らすことは控えました。風がやや強いので酒臭を確認しようにもよくわかりません。

通報先を 119 番か 110 番にするか迷いましたが、結局 110 番を選びました。事情を話すとまず帰ってきたのが「酔っ払いですか」という質問で、酒臭の確認を求められましたが、当方から「酒臭ははっきりとわからないこと。ただ、声かけに反応がなく、酪が大きいことが気になること」「119 番か 110 番か迷いましたが、警察官職務執行法第 3 条の案件かと判断しましたので 110 番しました」とお伝えし、ちょうど近くをパトロール中の警察官の方に引き継いでその場を後にしました。

「警察官職務執行法第 3 条の案件と思われる」と伝えた時は、少し驚かれました。実は仕事上泥酔者として幾度となくこれに基づく警察官による保護を受けた方の処遇も何度か経験していましたので、咄嗟に言葉が出てしまったのでした。

結局ぎりぎり始発電車に間に合いましたが、「酔っぱらって路上で寝るなんて」と苦々しく思いつつ行き過ぎることもできたかもしれません。しかし、この状態を放置して自転車やバイクと接触すれば事故に発展する危険もあると考えましたし、何よりも「酔い」は度を過ぎれば命を落とす(吐しゃ物が喉につまってしまうなど)こともあり得ることを、長年の依存症に関する処遇や学びの中で私は経験していました。

仮に彼が飲酒をして寝込んでしまっただけで、何事もなく冷めて起き上がることができ、酒の上での失敗談として笑い話で済んだ出来事だったかもしれませんが、それで済まないことが世の中には往々にしてあり得ます。結果的に何事がなければ「余計なお世話」と言われてしまう出来

事かもしれませんが、違和感に気付いた人が声をかけたり、助けを求めることが、結果的に「何事もない」ことにつながっていけば、それに越したことはないと考えています。

更生保護官署職員

(認定社会福祉士・認定精神保健福祉士)

現代社会を『関係性』という

観点から考える

P163~

迫 共

不適切な保育への対応や保育士配置基準の改善に向けた機運がようやく高まりを見せています。私自身、保育士の給与水準の改善や、ブラック保育の問題とかが様々な形で発信してきましたので、ようやく何かが変わるのかなと少し期待をしています。「財源どうする」論がブレーキを引くばかりで、これまで大きく変化してこなかったことを考えると、1 ミリでも前進してもらいたいと思っています。学童保育の待機児童(またはつめこみ)問題など、子どもに関する社会課題の整備は、いつも後回しになってきました。対策可能ギリギリ(アウト?)なタイミング。そちら方面のソーシャルアクションも引き続き行っていく必要があります。

保育と社会福祉を漫画で学ぶ

P169~

黒田 長宏

本文に関連して、NHK でさえ特定企業の製品であるチャット GPT を連日紹介しているわけだ。それなら対人援助学会にこれを書いて大丈夫だろうと思い、今回はこのネタで行こう。比較して安価なのが理由で、ひかり TV で CS を見始めて6年になっていたが、これには録画に工夫が必要で、ソニーのソフトを使用してパソコンで録画するのが主流だったのだが、船井電機からひかりTVレコーダーが出てきたので早速購入していい調子で録画することになっていたのだ。ところが急にルーターとの兼ね合いが変になってしまい、思案して以前の主流のスカパー！にすべ戻した。こっちのほうがお金は比較するとかかるが録画は安定しているのだ。船井電機のレコーダーもBS専用の録画にし

て、もう一台で地上波とCSを録画することにした。なにかしらまるで無駄にはならないものだ。そしてひかりTVとセットだとお得なプロバイダーから、ひかりTVなしで安いプロバイダーに変えるところである。そしてそして、これを記述している今だが、CSIに録画が入ってしまうと、GAORAスポーツで観ていた日ハムが出てこなくなってしまう、録画している番組になってしまったため、その場合には、Fire TV Stick 経由でのDAZNに切り替えてファイターズを観ることになった。テレビやインターネット閲覧にも方法がいくつかあるものだ。だいたいいくら努力しても結婚難で独りなわけだから、こういうことしかネタにならない。結婚の方法はいくつあるんだろう。

<https://konnankyuujotai.jimdofree.com/>

あぁ結婚

P147~

松村 奈奈子



春に、生まれて初めて山形県に旅に行きました。目的は有名なクラゲ水族館と「即身仏」

旦那に教えてもらうまで「即身仏？何？」という私でしたが、お寺の方のお話では、日本は湿度が高いので、自然に御遺体がミイラになる事は無く、千日ほど山に籠って木食修行(穀物を食べずに、木の実や草の根だけを食べ、肉体が腐敗しない様に体脂肪を落とす)し、死に近い事を悟ると山を下りられて、土中入定(地下3mのたて穴の石室でお経を読みながら断食をして死を迎える)し、数年後に掘り起こし、おまつりしたお姿が「即身仏」・・・との事です。

全国に16体あるのですが、庄内地方に多くあり、今回は3つの即身仏を拝ませて頂きました。来世までの人々の苦しみを救い、願い事を叶えるために、自らの命を捧げて「即身仏」になった・・・という数百年前の住職様のお姿に、静かにじっと手を

合わせました。

関西人にとって、東北はまだまだ知らない事がいっぱい。帰りに木食修行されたという、まだ雪が残る美しい湯殿山を見ながら、いろいろ考えてしまいました。

精神科医の思うこと P122~

柳 たかを

“時の交わるところで、また会おう”
2011年3月11日(金)のこと、我が芸大マンガコース主催のマンガ賞(メディアコンテンツ大賞)で、優れた個性的な作品1点に松本零士賞を授与させていただいていました。これははっきり言って本コンクールの目玉ともいべき賞で選ばれた作者へは、副賞にトロフィーの代わりに松本零士作品のキャラクターフィギア(メーテルかキャプテンハーロック)を授与することになっていました。松本先生が授業でキャンパスへ来ていただいた時に、ついでにフィギアもご持参いただいていたのですが、2011年は、私が東京の松本先生の零時社に直接受け取りに行くことになりました。当時、私は都内文京区にワンルームのアパートを借りていて、そこからなら先生のところまでさほど遠くないのです。お昼ごろアパート近くの地下鉄駅から巣鴨へ、そこから別の経路に乗り換えます。ちょうど地下鉄が一駅手前の千石駅に着いた時、とつぜん「ユッサ、ユッサ、ユッサ」停車している電車が左右に大きく揺れ始めました。「あっ地震！これは大きいぞ」幸い電車は停車してドアも開いていました。まもなく車内放送で「皆さま、地下鉄は地震には強い構造になっております、あわてず落ち着いて行動してください」と、続いて「ただ今安全確認をしております、そのまましばらくお待ちください」とのアナウンス。しかし5分経っても10分たっても全く運行再開の気配がない。「このままじっと待ってたのではダメだ、フィギアは何とでもいただいで帰らないと…」こう思うや電車を飛び出し階段を駆け上がった。地上は地震に驚いたサラリーマン達が携帯電話で話しながらあちこちのビルからゾロゾロ出てきている最中。そこへ一台の空タクシーがやって来た、とつさに手が上がり急停車、後部シートに滑り込み、零時社の住所を告げた。「高速に乗ります

か？」機転を利かした運転手が聞いてきたが、おそらくどんどん渋滞が始まる気がしたのと下を走っていれば、いよいよ動かなくなっても歩いて行けると思い直し、「下道を走ってください」とお願いした。結果的にこの判断がよかったと思う、下道は渋滞もさほど影響なく見覚えのある零時社の手前まで到着できた。さてここでタクシーを乗り捨てたら帰りが不安、カーラジオは各電鉄は安全点検の為すべてストップしているらしい。「帰りもお願いできますか？ここで待っていてください」年配の運転手の了解を確認してから向かった。この日、松本先生は所用でお留守と聞いていた、ところが呼び鈴に応じてドアを開けてくださったのはなんと松本先生ご本人！地震はここでもかなりの揺れだったようで玄関土間に崩れ落ちた段ボール箱が散乱。挨拶もそこそこに、あらかじめ来訪はお知らせしていたのでトロフィーのフィギアの入った箱をいただくことができた。何だかんだごあいさつしていると奥からこられた奥さまの牧美也子先生がおっしゃった「あなたここまでで何で(交通手段)いらしゃったの？」「タクシーです」「そのタクシーゼットイ逃しちゃダメよ、つかまえときなさいよ！」この非常事態、こちらの帰宅手段に強くご配慮くださることにマジ感動でした。確かに帰路の道路は車がどんどん渋滞し始め、道路沿いの歩道は電車が動かないため歩く群衆でスシ詰め状態、ついに我がタクシーも全く動けなくなり、しかたがないので私も人波に混じって何キロか歩きで帰ることに。さてこの6月はじめ、“松本零士先生お別れの会”(東京大手町)があります。「時の交わるところでまた会おう」と言葉を残された先生に、ひとことお世話になった御礼を申し上げてこうと考えているところです。23年5月

東成区の昭和 思い出ほろほろメモ P127~

団遊

家電芸人に負けないうらい「家電」が大好きな友人がいます。久しぶりに会うと、嬉々として最近導入した家電を説明してくれました。ちなみに彼は、奥さんと、幼稚園年中さん、年少さん、猫1匹の5人家族です。

まずは猫のお世話を自動でしてくれる

「PETKIT」という家電。猫との暮らしは7年目になるそうですが、PETKITは指定した時間に餌を設置し、糞尿の砂を取り換え処理し、ろ過した水を絶やすことなく補給してくれるそうです。

もうひとつは「Tapo」という室内カメラ。リビング、寝室など、あらゆる場所に設置し、夫婦で決めたルールのもと運用しているそうです。24時間録画されている映像は手元のスマホで確認ができます。Tapoのおかげで、PETKITの作動状況もリアルタイムで確認することができます。



これらのおかげで、家族旅行や夫婦のお出かけが容易になったと喜んでいました。子どもたちを寝かしつけた後、「近所のバーに奥さんと二人で」なんてことを楽しんでいるそうです。

「けど年中さんになると、自由に動き回れる分、例えば映像で状況が知れたとしても夜中に起きると不安でしょ」と尋ねると、「スマホからTapoを通じてしゃべりかけられるので、すぐ帰るからリビングでアンパンマン見て待ってて。机にあるお団子、食べていいよ、とか伝えれば、全然泣かないしおとなしく待ってるよ」と言っていました。

どちらの家電も、高級品ではありません。誰でも買える値段です。すごいな。

団遊の脱線的経営言論

P32~

村本 邦子

コロナの緊急事態も一段落で、3月には十年目に企画したまま延期になっていたハワイでのプロジェクトが実現し、懐かしい人たちと新たな出会い、また新たな人たちとの出会いがあった。

4月には初めて済州島を訪れ、4.3事件の公式行事に参加し、ここでも種々多様な方々と交流した。災厄は多くのものを奪っていくが、同時に、新しいものをもたらしてくれるというのもまた事実である。時間

経過とともに地域の記憶の形は変化し、出来事を共有しない世代が年々増えていく。こんなふうには人類の歴史は紡がれてきたのだろう。今、あちこちに伝承館と名づけられた施設ができています。伝承する主体は誰なのだろうと考えている。

周辺からの記憶 —東日本大震災家族応援プロジェクト— P99～

國友 万裕

今年のクリスマスに洗礼を受ける計画を立てています。

キリスト教の勉強を始めたのは今から5年くらい前です。ちょうどその当時、ある牧師さんと親しくなって、その牧師の先生がなさっているツアーでアメリカにも行きました。大阪の伝道師さんがなさっている集会にも何度か行きました。

その後、コロナ禍になり、京都の同志社教会に通うようになりました。それから聖歌隊にも加えていただけるようになりました。洗礼は焦って受けることもないと言われていたのですが、もう60歳を前にして、そろそろ洗礼を受けようかという気持ちになってきました。

洗礼はあくまでもスタートであって、ゴールではないので、これで完全に自分のクリスチャンへの道が成就したわけではありませんが、スタート地点には立てるかと思えます。洗礼は天国へのパスポートなのです。

別に仏教が悪いと言うものではありません。一時期は仏教の本もたくさん読んでいました。しかし、僕は子供の頃からアメリカ映画が好きで、アメリカ文学を勉強して、海外もアメリカしか行ったことがない身なので、自分のアイデンティティはアメリカという気持ちがあるのです。

まだ半年くらいあるのでどうなるかはわかりませんが、60歳になる前に洗礼を受けて、キリスト教の勉強を僕の終活にしようかと思っています。

男は痛い！ P74～

西川 友理

大和大学白鳳短期大学部で保育者養成に、その他いくつかの場所で社会福祉士など福祉系専門職養成・および育成に

携わっています。

この記事を書いている時期は、毎年恒例、実習先確保の時期です。何回か前に男性保育士について記事を書きましたが、今年もまた、男子は苦戦しています。「うちは男の子の実習生を受け入れていないんです」という言葉をまだ普通に発する保育園・幼稚園があります。「うちは女性の先生しかいないから、トイレや着替えの場所がないのよ。だから、十分環境が整っていないと思うのよね…だから、あなたの為にも、ね…」と言われた学生。「優しい気持ちでおっしゃっているのかもしれないけど、これって、マイクロアグレッションじゃないの？」「どうしたら実習が出来るのか、一緒に考えてくれることは出来ないのかな？」と学生たち。

実習環境、保育環境を整えるため、これは私も声を上げ続けたい問題です。

福祉系対人援助職養成の現場から P55～

坂口 伊都

コロナ騒動が落ち着いてきたので、88歳の母の故郷に行くことになりました。母の生まれは、静岡県浜松市で、そこに母の妹がいます。私も新幹線に乗るのは久しぶりで、随分と勝手が変わっていきそうだなあと感じていました。

母にとっては、最寄りの電車に乗ることすら大イベントなので、新幹線に乗るとなったらもう大変です。私の行く気が母より低そうだから、行くのやめると言い出す始末。昔からなのですが、母子は違う人間という理解が低いようで、母と娘が同じでないと不満なようです。

次は、ひかりに乗るのに自由席で行くと言い出します。老人会で、春休みも終わったしすいているよと皆が言っているとか。うーん、その人達は最近、新幹線に乗ったことあるの？何故、ケチるのそこ？何とか予約席を取ることができました。

最寄りのJR駅で待ち合わせだったのですが、移動当日、お腹壊したから迎えにきてと電話が。無茶言うなよお。タクシー呼ぶのも嫌と言うので、夫にお願いして母を迎えに行ってもらいました。

ようやく浜松に着くと、10年以上ぶりに会う叔母と従姉妹の顔。老婆2人は、「あ

の人は生きてるだ、死んでるだ」で盛り上がり、それを聞いているこっちも笑ってしまいます。母は、これが最後になるかもと言っていたのですが、次も行けると自信を持ったようです。はい、よく笑い、よく頑張りました。

立場が変わると何が見える P92～

岡崎 正明



地元広島でG7サミットが開催された。いろんなところに影響が出て、大きな会社は休業したり、学校が休みで子どもたちは喜んだり。全国各地の警察官が街にあふれ、「神在月の出雲国は、こんな感じでそこら中神様だらけなのかな～」と思ったり。普段は忘れ物やゴミ扱いの物が、突如“キケンな不審物”とされて度々騒がれる様子には、「やっぱり世界は唯心論で作られているな」と感じたり。

私自身批判的な見方もしちゃうし、そういう精神が必要なのも分かるし、いろんな人の思惑や、大人の事情があって広島で開催となったのだろうけど。でも、それでも。この地で、こうしてたくさんの方のリーダーが来て慰霊碑に献花し、資料館を見学し、被爆者の話を聞いたことは、ポジティブに受け止めたい。身分の上下を問わず、初めてそれを経験した人は、必ずそれまでよりも核兵器や戦争に向き合うことが避けられないはずだから。

国際社会がきれいごとですまないのも分かるし、この国の周りの心配な状況に何か手を打ちたくなるのも分かるけど。ただ、「知らない相手が怖い」⇒「だから身を守るために攻撃的になる」⇒「相手が攻撃的になれば対抗したくなる」というループから逃れるには、どちらが正しいとか損か得かよりもまず、「相手を理解すること」「こちらを理解してもらうこと」。結局そんな単純なことの積み重ねしかないのだと思う。

役場の対人援助論 P80～

河岸 由里子

【コロナ後？】

友人のところに 6 回目のワクチンの案内が来たそうだ。正直、もういいと言いたい。ワクチンも良いが、インフルエンザのように、治療薬が一般の医院に十分供給されれば、何も怖がる必要もないだろう。しかし、実際には治療薬が一般に回っていないのに 5 類になってしまった。まだまだコロナ感染者数は増えたり減ったりしているし、中々安心安全とは言えない。ビニールやプラスチックの仕切りはなくなったが、マスクをつけることや消毒は続いている。

そのような中、コロナの影響で、あちこちが人手不足になっている。インバウンドの拡大、人の動きの活性化が進み、飛行機は満席、ホテルは以前の倍以上の値段になっている。一気に増えた人の移動に対し、航空業界も飲食店もホテル業も人手が足りない。人手を確保するために、アルバイトの時給が上がっているというニュースを見た。時給が 1000 円どころか、2000 円にも 3000 円にもなっているところがあるそうだ。空港も保安員が足りず、飛行機の運行に支障が出るからと政府が支援をしようと言っていた。支援をしようと言っても、金銭的な支援は出来ても、人力的な支援は難しいだろう。

一方アルバイトを探している学生側も、コロナ禍の影響で、オンライン授業が続く、生で人と関わることが苦手になってしまった学生も増えた。昨年あたりから大学の授業も対面式になったが、それでも、コロナ感染の不安を抱えている人は多い。飲食店など、人と接するアルバイトを敬遠する学生もいるという。需要と供給が合わない。コロナの影響でアルバイトが出来ず、大学を中退した学生もいた中で、皮肉なものだ。某ファストフード店のテーブルに置いてあったフリーターへのアルバイト募集のパネルには「給与は 1 分単位で支給」とあった。時給は平日 920 円だそうだが一分単位というのは初めて見た。あの手この手でアルバイトを集めようということだろう。

時は留まることなく、ただただ流れていく。世の中の変化に柔軟に適応して生きていくのは中々大変だ。コロナの影響はいつ

まで続くのやら。早く落ち着いた世の中になってほしいものだ。

公認心理師・臨床心理士・北海道

かうんせりんぐるうむ かかし 主宰

あぁ、相談業務

P60～

先人の知恵から

P134～

大谷 多加志

この夏に息子がホームステイすることになった。実は私自身はこれまで海外に出たことがなく、数年前によくオーストラリアに行く予定を立てた途端に、コロナ禍が訪れてキャンセルで流れてしまいました。その後、依然として行けないまま、この度息子に先を越されることになりました。

その対抗策、というわけではないのですが、これまで苦手意識のあった英語をもう少しどうにかしてやろうと、今年度は現在書きかけの論文を、最終的には英語論文にしてやろうと画策しています。少しずつ大人に近づいている息子から刺激をもらえることが、何となく嬉しいです。ホームステイも論文も、次号の頃には後日談が出来るのかなと思います。がんばります。

発達検査と対人援助学

P87～

馬渡 徳子

勝手に職場の事務所に「図書コーナー」を作った。自宅の狭い本棚は既に満杯。仕方なしに以前は小まめに手放していたが、やはり愛着ある本は置いておきたい。誰かに自慢するわけでも、無理に読んでもらうためでもない。言葉を共有し、差異を意識する。これもひとつの方法としてやってみました。孫が、「深いねえ」と、しみじみとつぶやいた。

2018 年度から始まった仏教伝道協会主催の「お寺の掲示板グランプリ」。

2022 年度のグランプリは、『武器を捨てて 数珠を持つ』であった。作者はお寺のご住職の 15 歳の子どもさんであった。



この原稿を書いている時期に、隣の広島県で、G7 会議が開かれている。ウクライナの大統領も来日されている。

子どもたちにどんな未来を手渡すのか、私たち世代に課せられた課題から目を逸らさないようにしたい。

馬渡の眼

P125～

鶴谷 圭一

先日は、執筆者トークライブにて 2 時間喋らせて頂きありがとうございました。現在、幼稚園、保育園、こども園などの幼児教育関連施設は、送迎バス置き去り事故や不適切保育、誤嚥事故、保育士の処遇の悪さなどの話題が満載で、ネガティブな話題の方が、世間の注目を浴びてニュース性があるのでしょうか、国や行政を動かす、改善に繋がるメリットがある反面、仕事としての保育者のイメージダウンという負の側面があり、ただでさえ保育士不足と言われているのに悩ましいところです。

トークライブでもヒントをいただいて有難かったのですが、保育現場の楽しいプラスになる情報を自分で発信していくことも一つ、大切なことだなあ、と感じさせられました。どんなことができるかまだ分かりませんが、何かしなきゃという気持ちだけは抱いているこの頃です。

原町幼稚園 <http://www.haramachi-ki.jp>

メール office@haramachi-ki.jp

インスタ haramachik

ツイッター haramachikinder

幼稚園の現場から

P50～

水野 スウ

この季節は、濃淡さまざまのみどりが、目においしいごちそうです。あ、フキもワラビも山ウドもアスパラガスも絹さやももちろん、色とりどりみどりの、目にもおなかにもごちそう。

さて、マガジンでの連載 50 話となる今回は、「紅茶の時間」でひらいた小さな上映会のことを書きました。沖縄発ドキュメンタリーを何本も撮ってきた映画監督・三上智恵さんが、沖縄の現状をなんとか知ってほしいと 45 分動画にした DVD を、わが家のテレビで仲間たちと見たのです。その映像、実は来年完成予定の三上さんの映画、

「沖縄、再び戦場へ」(仮)の中の、生の素材。沖縄を戦場にさせない、の一心で三上さんが、この DVD を無料で貸し出します、どんなに小さな会でもいいので、スピンオフ作品見る会をしませんか、と全国に呼びかけたのでした。

この「沖縄、再び戦場へ」(仮)スピンオフ見る会は今、全国にひろがっていて、7月8日には私の母校でも上映することになりました。主催は「平和を求める日本女子大有志の会」13:30～ 会場は日本女子大学成瀬記念講堂。作品上映後は 14:40～16:00、大矢英代さんがオンラインでお話しくださいます。三上さんと一緒にドキュメンタリー映画「沖縄スパイ戦史」をつくり、今はニューヨーク州シラキュース大学でジャーナリズムを教えている、とてもすてきなひと。この日の大矢さんは、朝のヨーロッパから zoom でお話をされるそうです。参加は無料で、申し込みもありません。ご都合ついたらこの機会にぜひ、ごらんになってくださいな。

きもちは言葉をさがしている

P65～

脇野 千恵

仕事の他に、趣味の時間を持つことが、何よりの楽しみだ。体を使うこととして、野菜を育てること。これは 30 年以上続いている。住まいの周りには水田が広がり、コメ作りの様子を感じることができる。空いた畑を借り野菜の世話をすることは、日々のストレス解消となる。たくさん収穫することを目的にしているから気楽だ。鳥が食べにきてモグラの餌になっても、それは自然の中での出来事、気にならないのが不思議だ。今年も夏野菜の苗を植えた。育てるプロセスを楽しみたいと思っている。

他に最近始めたことが、ピアノ。小学校教員をしていたころは弾けていた。我が家には、子どもたちが練習していたピアノがある。誰も弾かなくなったピアノがかわいそうになり、調律をした。生き返ったような音色に嬉しくなり、ピアノを習うことにした。先生も高齢者。

さぞ高齢の生徒は大変だろうと思う。教えられる側の気持ちがよくわかる。この年になっての適度な緊張感もいいものだと思う。夢は街角でのピアノ演奏。

こころ日記「ぼちぼち」

P185～

中村 正

2023年度をもって永く勤務した立命館大学を定年となる。この3年ほど、退職準備期としてこつこつと動いている。難儀なのは研究室の整理だ。昨年1年かけてまずは3分の1くらい書籍を整理した。以前は大学図書館に寄付できたのだが今は受け付けていない。廃棄してよいものをまずは古本屋にだした。それなりの値段をつけてくれた。今年度も同じようにして整理するが、文系の研究者が本を手放すのには決断が必要だ。本当はブックカフェでも開きたいくらいだ。そして、まだ先は長いとすると何をして過ごすのかについてもあれこれ思案し、準備することになる。私の理想は、名刺に、「中村正」とのみ書くことだ。「私の仕事は中村正です。」という意味だ。これは敬愛する寺山修司から学んだこと。次の10年はこの名刺だけで過ごしたい。社会活動や社会実装が好きで、あまり学者らしくないので同じようなことをしているとは思うが。

臨床社会学の方法

P22

篠原 ユキオ

9月で後期高齢者となるが毛髪の伸び方は衰えない。少し毛が細くなった気がするが毎月2回はカットする。夏場は特に髪の毛の伸びが気になって衝動的に切りたくなる。40年近く散髪屋さんには行かず、自分でカットしている。市販の家庭用の電気バリカンを使って合わせ鏡をするのだが毎回ドンブリ鉢一杯ほどの毛の塊ができる。最近では白髪が目立つようになった。ヒゲの伸び方も同じでこれは頻繁に自分で剃刀やハサミで整える。



100歳近くになるおじいさんの耳毛や眉毛や鼻毛が異常に伸びているのを見たりする事があるが、老いて来ると発毛をコントロールする神経の調節が効かなくなるかららしい。

そんな事を思いながら毎日のように新聞やネットの画面に広がる発毛剤の広告にはうんざりしている。

HITOKOMART

P199～

山下 桂永子

新年度が始まり、バタバタとしていてとあつという間に2か月が経ちました。仕事におけるの忙しさは毎年新記録を更新している気がします。忙しいというのは心を亡くすと書きますので、私は年々心を見失いがちなかもしれません。

10年以上前に、同じ職場の先輩が「あのね、仕事は減らそうとしたら絶対増えるから」と言っていました。その時はなんのこともよくわからなかったのですが、自分の仕事を減らそうと動きだすと確実に増えてしまうホラー現象は実感している今日この頃です。とはいえ、忙しい仕事を一人で抱え込んで苦しんでいるのかといえば、そうでもなくて、職場の方々と協力し合い、工夫とアイデアで支えあってどうにかこうにか乗り切っている結果、新しく取り組めることが増えてきているのかな、とも思います。そんな日々を書いてみました。読んでいただければ幸いです。

心理コーディネーターになるために

P135～

千葉 晃央

実家に帰るとスマホやパソコンのことを母にきかれる。今回、前のスマホを買い替えなくてはならなくなり、新しいギャラクシーに変えていた。SNSの移行ができていなくて、それをして！とのこと。まずは恒例「パスワード地獄」の始まり。格闘後、何とかミッションクリア。音楽を聴くのが好きな母は、ドンキにあるCDレスキューコーナーでよく買って聴いている。「そうか、だったら Spotify(スポティファイ)を母のスマホに入れてみよう！」とインストール。無料版でも十分使える。そして、歌詞も出るからカラオケにもなる！すると母は早速使いこなして、私にイントロドン！を仕掛けてくる。それでワイワイ楽しく盛り上がった。今回の帰省で、私は母にカラオケに行くことを誘ったが断られてしまった。「声が出ない！」というプロのような理由だった。次回は Spotify 効果でめっちゃ声が出て、歌え

ること間違いなし。

母子デートでは秋田の象潟に行き、過去に噴火、山体崩壊、隆起による陸地の拡大もあった地域にある蛸満寺(かんまんじ)とその周辺へ。大きな被害の一つは、江戸末期にあった。その被害に対する100年後供養を明治時代にして、その時の供養碑がたくさんのお地藏さんと共に祀られていた。その後、由利本荘市郷土資料館に立ち寄る。噴火被害に加えて、飢饉、凶作の歴史にも触れた。さらに雪国で暮らす知恵が詰まった民具の数々にも出会う。私にとって、母は専属解説者である。「これは使った!」「これは家にあった!」と当時の暮らしも交えて話してくれる。印象に残ったのは「下駄スケート」と「竹スキー」。そして秋田藩の隣、土崎藩の土崎港歴史伝承館、さらに秋田城跡歴史資料館、秋田大学鉱業博物館にも足を延ばした。

「日本最古の水洗トイレ」としてプラタモリでも紹介されたものが再現されていて、秋田城跡歴史資料館にはあった。実際に使おうとする人がいるようで、今使用できるトイレはここ!という掲示も横にあった。江戸時代まで紙は高価で、おしりを木のへら「クソベラ」で拭いていたというのは聞いたことがあった。この遺跡でも当時のクソベラが多数発見されている。クソベラは使い捨てのようで、まるで割りばしのようにクソベラが複数かごに入れてあってトイレの横に置かれていた。クソベラは、私は勝手に「使いまわすのかな?」と思っていた。西洋では使いまわすスポンジ状のものもあったと聞いていたので、おそらくそうだろうと勝手に思い込んでいた。木に文字を書く時代はおしりも木で拭き、紙に文字を書くとき紙で拭く…。他にもクソベラの横に甕(かめ)に水を入れて、その上にひしゃくが置いてあった。1000年以上前の暮らしの一端であるこの「おトイレ」をリアルに母と共にじわじわ感じて…母と爆笑!!大陸を含む各地から人々が移住してきた秋田の歴史がより立体的に感じられました。そら、秋田美人もうなずける。次回も行くところを決めている。夏秋編もどうぞ期待!

家族支援と対人援助 **ちばっち**

chibachi@f2.dion.ne.jp

090-9277-5049

障害者福祉援助論

P17~

団 士郎

近年は「家族理解ワークショップ」と称することが多くなったものを、全国各地で継続開催するようになって四半世紀以上になった。この間ほぼ、自宅から業務場所へ移動して、終了すると直ぐ帰路が習慣だった。翌月曜には仕事が詰まっていたからだ。

それがここ五年程で大学院、相談室の定例勤務から解放された。スケジュール表を完全に自分の意志で差配できるようになった。

そこでWSや講演の前日や終了後に、出先周辺を散策しようと思立った。一月には浜松で砂丘や浜松まつりの展示館を除いた。四月には久しぶりのお伊勢参りをした。GW明けは上野の都立美術館と国立西洋美術館を訪れた。

そして先日は東広島市(北海道)に新しくできたエスコンフィールドの見学ツアーに参加した後、支笏湖からの水力発電所風景に驚いた。



この先も、可能なところではこんな風にしたいと思っている。いずれもたいした目的があるわけではなく、散歩に過ぎないが、「出来るあいだに…」なんて言わなきゃならない年齢であることは間違いのないから。

晩年 D・A・N 通信④

P41~

中島 弘美

コロナ緩和により、相談に来られる方の中にも、マスクなしでお話されることが少しずつ増えてきた。

私が講義を担当させていただいている〇大学では、この3年間すべて遠隔授業

だった。が、この4月から対面授業ができるようになり、本当に久しぶりに学生さんと直接顔を合わせている。授業の中では、カウンセラー役、クライアント役のグループワークなども取り入れて、学生さん同士の交流も再開した。

最近、少しずつ暑くなってきた。そのため、学生さんたちに断りを入れて、授業中、私が話をする場面に限ってマスクをはずすことを伝えた。「飛沫が気になる人は、前の席は控えてくださいね」と。

すると、息苦しくなく、とっても話しやすい!

こちらの思いを、表情とともにみなさんに伝えることができるのといいなあと願いながら、授業をしている。

カウンセリングの場面でも、マスクなしで話し合いができるといいなと思、それぞれのご家族に対して、不安につながらないように、無理のない範囲で、かつタイミングを逃さないように、少しずつ呼びかけている。

カウンセリングのお作法

P38~

藤 信子

今年の春は、雨が多くて思うように散歩に行けなかった。雨が多いのとは関係ないかもしれないけれど、浅利が小さくて、なかなか思ったような料理が出来なかった。熊本産という偽装が出来なくなったからだろう、と家族は言うのだけれど、偽装できなくなったからと言って、浅利が小さくなったわけではないだろう。何か採れにくいことがあるのではないだろうか。八百屋さんでは、天候のせいで不作になったものや、いろんな作物の話の聞けるのだけれど、魚屋さんは、私が行くときはいつもお客さんが多くて、今年は浅利がなぜ小さいのか聞くことはできなかった。ここ数年、春先に鱧を見かけないので、それも聞きたいと思っているまま聞けていない。気候変動と関係があるのか知りたいのだけれど。

解放の心理学へ

P35~

竹中 尚文

長野県中野市でショッキングな事件が起きました。報道の中で、少し考えることがありました。犯人に精神鑑定がおこなわ

れるだろうという識者の声があり、それを当然の如く受け入れる社会があるようです。このような非人間的な行動の理由に精神疾患を疑うことが当然とする私たちの社会常識に疑問を持ちます。私たちは一年あまり前のウクライナでのロシア兵の行動に精神疾患を疑ったのでしょうか。私たちの社会で理解できない行動に対して、精神鑑定を持ち出すのは精神疾患に対する偏見がありはしないでしょうか。

昨日のお参り先での話です。私のお参り先の数軒は精神疾患を患う一人暮らしです。この時もその1軒でした。訪れると彼は怯えていました。どうしたのかと尋ねると、数日前に近所で首のない猫の死骸が置かれていたそうです。そのことで彼は警察から3日続けて訪問を受けたそうです。そのうちの1日は警察署での聞き取りだったそうです。「〇日の〇時ごろ、何をしていたのか？」という聞き取りだったそうです。彼の病気の症状として、他人と話すことが苦手です。彼がストレスなく話すことができるのはほんの数人です。彼は人と話したくないので自分の顔が隠れるように髪の毛を伸ばした風貌です。「僕の風貌や近所の人たちとコミュニケーションをとらないので、あやしいといわれたのかもしれませんが」と彼はいいます。私は、彼がそのような行動をできる人間ではないと思っています。悲しい偏見です。

私は普通の僧侶としてお参り先で、いろんな人に出会います。精神疾患でその偏見を受けている人たちに出会います。LGBTQの偏見に苦慮している人もいます。お参りをしているいろんな差別偏見を受けている人たちに出会います。そんな時、差別や偏見はしてはならないと強く思います。ところが、社会を俯瞰的に見るときに私たちは差別や偏見を簡単に持ってしまうことを認識しておかねばならないと思います。中野市の事件にたいする私たち社会の姿勢に表れていると思います。

ところで、欧米の識者でLGBTQ差別の原因に宗教的背景を述べる人がいます。これはキリスト教の教義や宗教史だけの知識で話されているようです。宗教議論がキリスト教ベースで語られることの一因に、宗教議論が始まるとそのテーマから降りてしまう東アジア人の姿勢があるのでしょう。英語で議論ができる東アジア人が増え

ましたが、宗教議論になると何も語れない現状があります。中国韓国の仏教に対するアカデミックな研究はわずか数十年です。百数十年の日本の仏教研究に対しては一般的な日本知識人の忌避的な姿勢があります。この日本の傾向は、江戸時代に精神的封建制度を支えるために無宗教を強調したところから始まりました。近年の日本社会の保守的動向と共にそうした姿勢が強くなっています。

路上生活者の個人史 P72~

寺田 弘志

2月に亡くなられた大学時代の恩師 佐々木雄二先生の本を参考にしつつ「自律訓練法とこりの改善」について書いてみました。

シュルツが自律訓練法を開発し、それが多くの人に認められてブラッシュアップされ、大いに世の中の役に立っていく流れを学びました。

思えば大学時代、自分は周りの環境に不満ばかり言っていました。

偉大な先生のもとにいて、幸せな環境にあったのに、学ぶチャンスを無駄にしまいました。ほんとに馬鹿だな、俺。涙。

接骨院に心理学を入れてみた

P155~

見野 大介

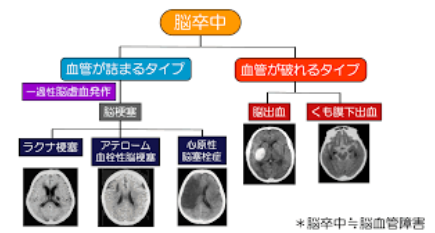
1年前の5月にマガジンの原稿を作成していた時は、引っ越しによりあと1週間で退去しないとけなかつた。GWの信楽の陶器祭が終わった直後から引っ越し準備を始め、合間に窯を焚き続けて注文の納品も済ませ、気付いたらあと1週間で退去という状況。絶対間に合わないと思いがら原稿を書いていたのが今思うと面白い。

結局、退去立ち会い当日の待ち合わせ5分前に部屋の掃除が終わって、なんと間に合った。こうして今、新居で平和にこの原稿を作成できていることに安堵しつつ、もう二度と引っ越しはしたくないと強く思ったという、どうでもいい話。

ハチドリ器 P4

鶴野 祐介

「病气入院のため、1回中断しましたが、今回なんとか復帰できてよかったです。この間の経緯を書きとめておきましたので、ぜひお読みください」



うたかたりの対人援助学 P143~

山口 洋典

マスクをつけない生活が徐々に日常になってきました。一方で4月に咳喘息という診断を受けることになりました。しばらく咳が止まらないのが気がかりで内科にかかったところ、気管支炎の一手手前、という見立てでした。長らくマスクで守られてきたためかもしれません。

そうした中、4月から立命館大学サービスマスラーニングセンター長を務めることになりました。サービスマスラーニングセンターは、2004年に産業社会学部によって設立されたボランティアセンターを発展・改組したものであるため、一部で例外はあるものの、これまでは慣例で産業社会学部の教員から選出されることが慣例となってきました。少なくとも、学部所属ではなく全学の教学を企画・設計・評価等を担う機構所属の教員がセンター長となるのは初めてのため、新たな歴史的一幕に身を置いた感覚です。そのプレッシャーに耐えかねて、センターの息が続かなくなるようなことは避けねばならぬ、と、日々、深呼吸を重ねています。

PBLの風と土 P149~

小林 茂

前号に引き続き、どうも大学教務の仕事に追われ、またまた共時的事件が集中して執筆に追われてしまった。具体的な事情は、また落ち着いたら話題にしたいと思うが、思索するという事柄が遠のいて、不安全感というか、モヤモヤとしています。しかしめげずに次号に向けて励みたいと思っています。

対人支援点描 P90~

古川 秀明

小中高生の自殺が増えて
います。SCとして学校現場
にいますので、その実情をリアル
に体験しています。個別の
面接だけではなく、学校全体
のアセスメント能力と、チ
ーム学校の新しい在り方を模
索する時がきていると思いま
す。しばらくこのテーマで書
かせていただきます。

講演会&ライブな日々
P285～

荒木 晃子

近年、国内の多くの地方自治体毎にス
タートしたパートナーシップ制度が、2023
年10月島根県で導入されることが決まり、
喜んでいいます。市町村単位での導入が多い
中、県単位の取り組みであることもその理
由の一つにある。かつて、県内初の生殖
医療専門医療機関(内田クリニック)の院
長から、開業に際し苦労した数々のエピ
ソードを聞いたのは約16年前。以降、毎月
の不妊心理カウンセリング業務を継続す
るなか、再び新たな時代の目撃者となる
かもしれないと期待している。



伝統を重んじ、出雲大社を有する神道
の国、島根。小泉八雲が愛した日本一タ
日が美しいといわれる宍道湖には、嫁島
(よめじま)という、わが子を失った母にま
つわる悲しい伝説が残る小島が浮かぶ。
其の地はのどかで海の幸山の幸に恵ま
れ、そこに暮らす人々はシャイで心優
しく、あたたかい反面、保守的で、当初、
私のような外部者にとってはどこか閉塞
感を感じることをさえた。

今では第二の故郷と称する島根に、こ
の秋からパートナーシップが導入され、11
月25日には第1回島根レインボーパレード
が開催されることとなった。県警、県庁、
国立島根大学などからのエールを受けた

県内初の一大会となる。今筆者のこ
ころは、その準備のスタート地点に、県下
で暮らす当事者と共に在る。パレード当日
は、島根の大地を当事者と支援者、そして
同志と共に踏みしめているだろう。

それを必要とする人たちに、これまでの
経験と研鑽を活かし、島根でつながった多
くの仲間と共に私たちにできること、私た
ちだからできる援助を提供したいと願って
いる。以上、待ちに待った援助実践に注
力するため、今回は休載とさせていただきます
ことにする。

生殖医療と家族援助
休載

工藤 芳幸

駅で倒れて救護されるという経験しまし
た。意識を無くしたわけではなく、平衡感
覚を失って立てなくなり、大阪駅のホーム
で座り込むことに。実は以前からこういうこ
とがあったのですが、駅員さんに車椅子で
救護されたのは初めての経験でした。どこ
かの親切な会社員と思しき男性が「大丈夫
？駅員さん呼ぼうか？」「あんまり無理
しちゃダメだよ」と声をかけてくれました。
徐々に人にお世話をされるようなことが増
えてくるのかもしれないな、という予感がし
つつも役割が増える一方の年齢でもあり、
体には気をつけないと…と思う今日この
頃です(そんなこともあり、今回も休載いた
します)。

みちくさ言語療法
休載

小池 英梨子

ねこから目線。のフランチャイズ1号店
が6月からなんと沖縄にできることになり
ました。その開業前支援として4泊5日沖
縄入りし、現地のスタッフと密に打ち合わ
せや研修を実施しました。2人で気合を入
れすぎたのか、研修翌日に私は関西で、
沖縄スタッフの伊波さんは沖縄でそれぞ
れ熱を出して寝込みました(笑)。久しぶり
の風邪にすっかりやられ(関西寒い…)、
いつもギリギリにマガジンを書き始めて完
成させる私は、今回書ききることができま
せんでした…。書きたいことは山ほどある
はずなのですが、今回はごめんなさん、休
載です。

そうだ、猫に聞いてみよう

休載

中村 周平

度々休載で申し訳ありません。書きた
いことがたくさんあるのですが、体調があ
まりよくなくフラストレーションがたまる時
期でもあります。今回は皆さんに原稿をお
届けしたいです。

ノーサイド
休載